

## 令和7年度 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト計画書(報告書)

学校番号	24	学校名	富士北稜高等学校	全・定・通	全	在籍生徒数	551 名
スクールポリシー (学力に関するもの)	<p>1 基礎的な知識・技能をベースにして、生徒が意見を交換したり、発信したり、交流したりすることによって、学力面だけではない生徒一人一人の個性や能力が發揮され、多くの生徒の活躍が保障される授業を目指します。 2 「周囲との協働」と「一人での思考」のサイクルを繰り返すことによって、考え方を進化・深化させることを重視します。 3 ICT・AI等を活用しながら、正解のない問い合わせに対して教員・生徒をはじめ、異なる立場・世代の人たちとともに問題解決に取り組みます。</p>						
グラデュエーション ポリシー	<p>正解のない問い合わせに対する答えを考えようとしていることを通じて、新しい付加価値を創造できる人材</p>						

生徒主体の授業への転換のための取組テーマ	
<input type="checkbox"/>	自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり
<input type="checkbox"/>	目標の実現に向けて生徒が自己選択や自己決定を行う機会の創出
<input type="checkbox"/>	主体的・対話的で深い学びの視点による授業と評価の改善
<input type="checkbox"/>	ICTの利活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
<input type="checkbox"/>	文理の枠を越えた教科横断的・総合的な探究課題への取組

具体的な取組	
・相互授業参観をしてた教科の授業技術を自身の授業に取り入れる。	
・「よのなか科」や「エナジードコア」の授業を通してファシリテーション技術を身につけ、生徒主体の授業づくりができるような授業改善に取り組む。	

「生徒主体の授業への転換のためのアンケート」高評価数値の推移(%)	
(各校の授業アンケートに基づく)	
1.自ら学習課題や学習方法を選択して自主的、自発的に学習に取り組むことができた (①強くそう思う, ②そう思う)	63.5%
2.活用や探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	57.5%
3.授業や単元の始まりに目標を確認することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	58.4%
4.授業や単元の終わりに目標の達成度を自己評価することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	54.5%
5.授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた (①強くそう思う, ②そう思う)	65.2%
6.授業の中で課題解決に向けて自分から取り組んでいる (①強くそう思う, ②そう思う)	60.1%
7.授業の中で各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った (①強くそう思う, ②そう思う)	55.7%
8.他の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方へ気付いたりすることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	66.2%
9.学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた (①強くそう思う, ②そう思う)	60.8%

総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の取組を含む)	

各教科の取組		※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。			
教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価	課題解決のための次年度の取組	
国語	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。	3.9			
	論理的に考え、他者との関わりの中で伝え合う力を身に付けることができる。	3.9			
	読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けることができる。	3.8			
地政	学んだ内容を理解し、たくさんの情報を調べ、そこから必要なものを選択してまとめる力。	3.7			
	学んだ内容について様々な面から考え、判断し、考えたことを話し合う事ができる力。	3.8			
	学習を通してよりよい人間関係性をつくり、社会づくりに参加しようとする態度。	3.8			
数学	基本的な計算能力を高め、数学的思考が生活に活かせるように育成する。	3.8			
	数学的な考えを日常的に利用し、あらゆる場面に対応できる力をつける。	3.4			
	数学の学習を通していろいろなことに興味関心を持てるようにする。	3.5			
理科	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な方法や技能、知識を身に付けることができる。	3.7			
	自然の事物・現象について科学的に考察し、論理的に表現することができる。	3.6			
	自然の事物・現象に興味を持って主体的に関わり、科学的に探究することができる。	3.6			
英語	実際のコミュニケーションでの目的や場面、状況などに応じて音声・語彙・表現・文法・言語の働きを適切に活用できる技能を身に付ける。	3.7			
	情報や考え方などの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝えあつたりすることができる力を養う。	3.6			
	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	3.7			
芸術	作品ごとの歴史的背景について学び、その表現方法について理解し、そこから自分らしい表現方法を見つけ出す。	3.8			
	作品ごとの特徴を理解し、それぞれの表現方法を比較する。	3.8			
	様々な作品に触れ、文化に興味を持ち、自己表現をすることや、作品を鑑賞する喜びを味わい、芸術を自分なりに評価する態度も養う。	3.8			
家庭	家庭生活をより豊かにし、自己管理能力を高めるため、基礎的な知識や技術をしっかりと習得させる。	3.8			
	グループ活動やディスカッションを通して、他者との対話を大切にし、協働しながら問題を解決する力を養う。	3.6			
	家庭科の授業を通して、家庭内外でのコミュニケーションや人間関係の重要性を理解し、主体的に考えて行動できる態度や価値観を育む。	3.6			
保健	各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につける。	4.1			
	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的に解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	4.0			
	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。	4.0			
情報	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人とのかかわりについて理解を深める。	3.8			
	様々な事象を情報とその結びつきとしてとらえ、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切に活用できる	3.7			
	情報と情報技術を適切に活用するとともに、関連法規を遵守し、情報社会に主体的に参画する態度を養う	3.7			
総探	社会の課題を発見し、テーマを設定して解決のための情報を選ぶことができる。	4.0			
	課題解決のための思考力、判断力、表現力(OUTPUT力)を持つことができる。	4.0			
	グループで協働して解決しようとしている。	4.2			

各教科の取組		※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。		
教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価	課題解決のための次年度の取組
機械	あいさつ・約束遵守・メモを取る習慣・コミュニケーション力を中心とした人間力を向上させ、社会で通用する資質を身に付ける。	4.5		
	ものづくりに必要な図面を見る力・測定・加工についての基礎知識・基礎技術を身につける。	4.5		
	資格取得・各種コンテストに参加し、主体的・協働的に取り組む態度を養う。	3.8		
電気電子	ものづくり産業を支える人材に必要な、挨拶、規律などの基本的生活習慣を身に付ける	4.4		
	系列における基礎・基本となる技術や技能、知識を自らが進んでの習得するため、自分に合った学習方法を見つけ、計画的に学習を進める力を身に着ける。	3.9		
	学習中に直面する課題や困難を他社と協働し、柔軟な思考と創造力を持って、解決する力を身に着ける。	4.1		
建築	地域の「ものづくり」産業を支える人材となるため、建築士や大工、施工管理などに関する基本的な知識・技能を生かし、それを活用する身に付ける。	4.1		
	他者と円滑にコミュニケーションをとり、協働して問題を解決する力を身に付ける。□	4.2		
	ものづくりに携わる上で求められる規範意識を身に付ける。	4.1		
福祉	福祉の各分野の実践的な知識や技能を身につける。	4.2		
	多様な価値観を認め、生活の質向上のために協働する主体的態度や表現を養う。	4.1		
	よりよい社会を目指して、協働して行動する意欲を育む。	4.2		
商業	商業の各分野についての基礎的、基本的な知識の習得。	4.1		
	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会づくりを目指すことができる。	3.9		
	ビジネスに関する課題を自ら発見し、解決に向けて取り組むことができる。	3.7		